

新規ワークショップ xSIG の提案と参加のお願い

研究分野間の新たな連携に関する検討会
(通称: 考える会)

名称 xSIG のころ

- ▶ xSIG: *cross*-disciplinary workshop on computing Systems, Infrastructures, and programminG
- ▶ コンピュータ, システム, 基盤, プログラミングに関する分野横断的ワークショップ
- ▶ と同時に, 複数の SIG (研究会) の連携であることを表したい

コンセプト

- ▶ xSIG 経由で国際会議への投稿を妨げない設計 (ACSI 同様)
- ▶ エントリレベル含めた若い学生の発表を促進. その上で, 査読, 研究会横断など研究会にはない付加価値をつける
- ▶ ⇒ ACSI のように英語限定とはせず,
 - ▶ 国際学会への再投稿を考えている人
 - ▶ エントリとして利用したい人

両方にメリットのある設計

立て付け

- ▶ 名称: xSIG
- ▶ 第一回開催時期: 2017 年 5 月
- ▶ 第一回開催場所: 東京近郊 2-3 日
- ▶ 第一回論文募集締め切り時期: 2017 年 1 月?
- ▶ 第一回 general chair: 田浦 (東大)
- ▶ 第一回 program chair: 五島 (NII)
- ▶ 論文形式: 査読あり, 予稿集発行せず
- ▶ 採否決定形式: ACSI なみ (EasyChair + F2F)?
- ▶ 論文・発表言語: 日英両方
- ▶ 学会誌との連携的な話: しない?

魅力向上策(検討中)

- ▶ 一部の有望論文にメンターをつけ、国際学会への投稿推奨
- ▶ 一定数, 学生卒, 修士以下卒, 学部生卒をもうけ, 学生の投稿を推奨
- ▶ 最優秀論文賞的な賞の他に, 奨励賞を多数, 色々な尺度で出す (アイデア, 実装の努力や完成度, 説明が素晴らしい, 英語が素晴らしい, etc.)
- ▶ (少なくとも初年度は) 学生の参加を無料とする. または, 遠隔からの発表者に旅費援助?
- ▶ ArXiv との連携? 登録済みの英語論文を無条件に発表許可?
- ▶ 卒論, 修論丸投げ制度?

魅力向上策(検討中)

- ▶ チュートリアル的な, 広い聴衆向けに基礎を紹介する系のプログラムを充実させる, ないし気楽に多数実行
 - ▶ やってほしいチュートリアルの募集
 - ▶ 成果ソフトウェアのハンズオンチュートリアル的なもの (AICS のソフトウェアなど)
- ▶ いわゆる論文ではなく, 他の研究者に貢献するプログラムコードやデータの公開を目的とした発表など, 多様な発表・貢献形態

目指すところ

研究会ごとの細分化ではなく基盤，システム系分野が一同
に介して交流できる学会を目指しています

よろしくおねがいします

HPCS との開催時期の重複に関して

- ▶ 過去に ACSI のために動いてもらったという経緯もあり，心苦しい
- ▶ 本当に開催時期が重なっているのは避けるというのが大前提
- ▶ 「両方参加可能」を保てばお互いの客の入りに深刻な影響はないと期待
- ▶ HPCS の前後に東京で，というのはありではないか

考える会「国際会議化」に関する議論

- ▶ 初回，色々な立場の人にポジショントークをしてもらい，中にはもちろんフル国際会議化を推す意見もあった
- ▶ アンケートでも，フル国際会議化という意見は多い
- ▶ 一方，フル国際会議は，
 - ▶ 分野が広いほど，「需要の明確化」「立ち位置の確保」が難しくなり，成功の青写真が描きにくくなる
 - ▶ 各分野，トップ会議のラインアップは確立されており，かつすでに過密気味
- ▶ ここでの第一義的な目的は，日本の「システム～高性能応用」研究を縮小させないため，次の世代を盛り上げるための，分野間連携
- ▶ フル国際会議はもう少し絞った分野で，分野関連系はエントリ重視で，というすみ分け